

日本気象学会

沖縄支部だより

発行：日本気象学会沖縄支部事務局

〒900-8517 那覇市樋川1-15-15

那覇第一地方合同庁舎

沖縄気象台業務課気候・調査室内

離島でのお天気教室が大好評

沖縄県内には、東西約 1000 km、南北約 400 kmの広大な海域に 160 の島々が点在しており、船で 2 時間以上かけなければ“本島”（沖縄本島や宮古島、石垣島など）に渡ることはできない島も沢山あります。これらの離島に暮らす子供たちは小学校、ところによっては中学校が併設された、“小さな島の学校”で、中には数名の生徒と先生だけで、日々の学習に励んでいます。そんな子供たちに、お天気の話や気象の実験を見せてあげられないだろうか。

『離島の子供たちに、天気の話や気象の実験をみせてあげたい！』

そんな動機で、平成 21 年度より離島の小中学校でお天気教室を、日本気象学会沖縄支部と沖縄県内の気象台との共催で平成 21 年度は 3 校、平成 22 年度は 7 校で開催しました（第 1 表参照：平成 23 年 3 月 23 日現在）。

お天気教室の内容は気象、防災等に関する講演及び機材を用いた実験（竜巻、雨粒、雲、前線の発生、大気圧等）や気象観測測器（風向風速計、雨量計）の説明等です。気象・防災に関する講演は各学校からの要望に応えるような形で実施しています。

今まで 10 箇所の離島小中学校に対してお天気教室を開催しましたが、各小中学校の生徒たちは、お天気教室へ参加するのは殆どが初めてであり、大変興味を持って参加していました。気象実験に対しても大変興味を示し、実験毎に多くの質問が出されました。さらに竜巻や雨粒が発生する瞬間を観ると、一斉に驚きと歓声が上がりとでも楽しんでいる様子も覗えました。講演を担当した各講師は、要望に応えるよう工夫をこらしたプレゼン資料で実施したため、参加者は真剣な眼差しで聴講していました。また、多くの質問に対しても素早く的確な回答をおこなっていました。

離島住民の殆どが、天気と密着した仕事・生活をしていることから、生徒たちも気象に対して大変興味を持っているように感じとれました。少人数の離島では参加者数は少ないが、子供たち一人一人と接することができるので、より深く気象知識の普及ができるのではないかと感じました。今後は離島に限らず、へき地と呼ばれる地に暮らす子供たちをも対象としたお天気教室として、拡大的に開催していきたいと強く感じています。

40 近くの離島を全て回るには何年もの時間を要します。でも、この事業は継続的に実施していきたいと切に感じています。

～～～ 離島でのお天気教室を、これからも続けていきます。希望する学校や推薦する学校等をお持ちの学会員は事務局まで連絡を下さい。～～～

第1表

実施日	市町村名	学校名	参加人数
平成22年2月10日	南城市	久高小中学校	生徒36名、教師10名
平成22年2月18日	うるま市	津堅小中学校	生徒30名、教師10名
平成22年2月24日～25日	粟国村	粟国小中学校	生徒72名、教師16名
平成22年10月20日～21日	多良間村	多良間小学校	生徒129名、教師14名
平成22年12月7日～8日	伊是名村	伊是名小学校	生徒118名、幼稚園10数名、 教師10数名
平成23年2月2日	うるま市	宮城小学校	生徒11名、教師7名
平成23年2月14日	伊平屋村	伊平屋中学校	生徒45名、教師5名
平成23年2月15日	伊平屋村	伊平屋小学校	生徒80名、教師5名
平成23年2月18日	渡嘉敷村	阿波連小学校	生徒25名、教師4名
平成23年2月23日	うるま市	宮城中学校	生徒10名、教師4名



写真1 多良間小学校での実験の様子



写真2 宮城小学校での実験の様子



写真3 伊是名小学校での講演の様子



写真4 伊是名小学校での実験の様子

(沖縄支部事務局)